

我がまち九度山を愛する心をはぐくむ教育の推進

九度山町教育委員会

1. はじめに

九度山町は、和歌山県北部に位置し、大台ヶ原を源とする紀ノ川の左岸に接している。「高野参詣道（町石道、黒河道）」「慈尊院」「丹生官省符神社」の世界遺産や戦国武将真田昌幸・幸村父子ゆかりの「真田庵」などの文化遺産と、「椎出の鬼舞」や「傘鉾」などの古くからの民俗芸能、玉川峡（県指定文化財）をはじめとする美しい自然に恵まれている。また、特産品である柿は「日本一の富有柿」として有名である。

本町では、平成16年に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道の一つ「高野山町石道」が世界遺産登録されて令和6年7月7日で20周年を迎えました。その歴史・信仰・魅力について学校教育・生涯学習一体となり、未来につなぐ気運を高めました。



2. 教育目標

●九度山町における学校教育目標

豊かな人格の形成を図ることを主眼として、人間尊重を基盤とした心のふれあう充実した教育を通して「生きる力」をはぐくみ、主体的に生きていく元気な児童・生徒を育てる。

- (1) 自己実現を目指し自立する子どもの育成
- (2) 人を思いやる心豊かな子どもの育成と自ら体を鍛える子どもの育成
- (3) 確かな学力と深い学びのできる子どもの育成
- (4) 共生と公共の精神に富み、社会の形成に主体的に参画する子どもの育成
- (5) ふるさと学習を通して地域の文化や伝統を重んじ、国際社会に貢献する子どもの育成

3. 教育委員会・学校での取組

●教育委員会における町をあげての取組

平成16年に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道の一つ「高野山町石道」が世界遺産登録されて20周年を記念し、コンサートやシンポジウムなどのイベントを通じて、地域住民や学校教職員、他府県からの参加者が耳を



傾け、歴史を重んじながらも、歴史で終わることなく、次の時代に向けて考えを深めた機会をつくった。

シンポジウムの会場では各学校が出前授業や現地学習の成果を掲示するなど、多くの来場者に参観いただいた。

●中学校における地域学習

地域の一員として中学生である自分たちができることを考え、主体的にインタビューや調べ学習を通してそれぞれの問いを解決している。小規模校の利点をいかし、他学年に向けて発表をした。九度山町のために自分たちができることは何かを考え、行動しようとする生徒が増えていると感じる。



●小学校における地域学習

地域の文化財である慈尊院・丹生官省符神社、町石道など調べる活動を取り入れました。

出前授業を通じて世界遺産の見方・考え方を深めた後、各校の特色に応じて授業参観や文化祭の機会を通じて学習の成果を披露しました。



●小・中学校の元校長先生が出前授業

全ての小中学校に世界遺産マイスターや語り部等で活躍している元校長先生にお越しいただき、世界遺産の魅力と次世代への継承にあたる思いをお話いただきました。

地域に誇りを感じ、身近に世界遺産や歴史的な文化財を守る働きをされていることに関心をも



●地域学習教室（世界遺産 高野地域）

フィールドワークとして、参詣道の魅力や文化的景観を実際に目にしながら、その魅力を体感しました。世界遺産マスターの案内のもと、これまで受け継がれてきた歴史を学び、次世代に守り受け継いでいくことについて自分ごととして考えることができました。



4. おわりに

子どもたちは、身近に世界遺産や文化遺産が豊富にあることを誇りにおおい、そのよさや課題の解決に向けた深い学びにつながっているといえる。インターネットや書籍を通じて学習したことをもとに、体験的な活動を大切にしながら、発達段階に応じて外部の専門家に的確な質問をする意欲的な姿勢もみられる。この機会をもとにさらに九度山町では、自らの生き方を考えていく資質能力の育成とあわせて、我がまち九度山を愛する心をはぐくむ教育をますます推進していきたい。